

ケアポート板橋

症 例 概 要 利用者：80歳代、男性、要介護度4

病 名：アルツハイマー型認知症（平成30年頃）、変形性膝関節症、骨粗鬆症、便秘症、不眠症

利用サービス：ケアポート板橋特養5階（令和4年9月上旬～現在）

経過：妻と2人暮らし。部屋の片付け等ができずに物が散乱している状況。部屋で失禁のまま寝たきり状態の為、区が介入する。令和5年1月下旬、妻の救急搬送に伴い舟渡SS利用開始となり、現在に至る。成年後見人が就任。

内 容

令和4年9月中旬ケアポート板橋に入所。慣れない環境の中、夜間声出しのある同室者への暴言や、手が出そうな場面が見受けられました。またそれを制止しようとする職員に対しても、同様に言葉が強く手を上げようとする様子が頻回でした。そのような中、10月上旬、午前・午後と自ら扉の鍵を開け、2回の施設離所が発生。多職種にてご本人の言動から、外に出たいという気持ちは当然なので、「施設の中ででも何かやりがいになる事はないか」「ご本人にとって役割・仕事になるものはないか」と検討を重ねて参りました。

几帳面な性格であることから、洗濯したタオル・エプロン畳みを依頼。「ここはこう畳めば良いの?」と、とても丁寧に畳んでくれることが分かりました。また食後には、ご本人の食べた食器を下膳しようとされたことから、職員より下膳・片付けの依頼してみると、快く受けて下さいました。周りのテーブルを見回して、食事が終わっているご利用者分の下膳や食器ごとにカート内を分ける所まで下さる様になり、食堂内のテーブル拭き、掃き掃除など、職員も助かる動きを自らされるようになりました。職員から労いの言葉を掛けると「いやあ、そうでもないよ」と照れ笑いされ、優しさや几帳面な性格が顕著に現れていきます。

さらに職員が行う、ゴミ捨てや物品補充時にも声を掛け、ゴミ捨てに行かれた際には、外気浴や運動を兼ね、外階段で2階まで上がりベランダを1周して戻られています。作業療法士とも連携し、施設内中階段往復のリハビリを行い、歩く力を維持・向上出来るように取り組んでいます。更に先日は職員と共に地域清掃へ参加し、特養に入所したとしても地域住民の一人として、自らが住む街を綺麗にする活動にも参加されました。地域住民との関りも持つことができています。



ご利用者はケアポート板橋での役割を見いだされる様になり、今では自らが手伝うことを探しながら、率先して「役割」を熟すようになりました。また、自ら施設から出てしまうこともなくなりました。ご本人にはまだまだ出来る能力を秘めています。できる事を継続していく事、強みを引き出す支援で、やりがい・充実感を得られるようにしていきます。ご本人の気持ちに寄り添いながら、今後ご本人が「輝きのある日」が過ごせる様、関わりを持っていきたいと思ひます。